

ドイツ-  
日本研究所

早稲田大学  
現代政治経済研究所

フリードリッヒ・  
エーバルト財団

国際会議

## 貿易摩擦の政治経済学

1993年12月11日~12日

早稲田大学国際会議場  
東京都新宿区  
西早稲田1-6-1

会議使用語  
英語/日本語  
(同時通訳)

企画・構成

*Franz Waldenberger*  
ドイツ-日本研究所  
千代田区九段南 3-3-6  
ニッセイ麹町ビル

*Michael Ehrke*  
フリードリッヒ・エーバルト財団  
港区南青山 5-1-10  
第1マンション312

# 貿易摩擦の政治経済学

現在、貿易政策の諸問題は国際政治の焦点となった。これは世界経済の統合が進んだ結果であることは言うまでもない。各国間の経済関係が活発かつ強化されたことにより経済摩擦も拡大した。そして過去の焦点であった物品貿易への関税やクォータ制に代わって、新たな課題が登場してきた。すなわち、サービス貿易の自由化、知的所有権の保護、政府調達、規制措置、国内競争政策、技術規格などである。問題点の移行に伴って解決のための政策プロセスとその手段も多様化し、その内容は従来の一方向的な対策はもとより、二国間あるいは多国間の継続的かつ集中的な交渉や国内規制改革にまで至っている。このように課題や戦略が多様化するなかで、貿易政策の問題解決への各国のアプローチが、その国の政治・行政制度や歴史、また世界貿易における位置付け等によって互いに異なることは当然とも言える。

## プログラム

1993年12月11日

9:30 開会の挨拶とテーマの概論  
Michael Ehrke (フリードリッヒ・エーベルト財団)

### 第1セッション・日本の貿易政策

10:00 日本の貿易政策と政治システム  
大山 耕輔 (筑波大学)  
10:30 貿易政策を左右する国内外の決定要因  
根津 利三郎 (通産省)  
11:00 ディスカッション  
11:30 コーヒー・ブレイク

### 第2セッション・アメリカの貿易政策

11:45 アメリカ貿易戦略における二国間交渉と地域主義  
Kenneth Oye (マサチューセッツ工科大学)  
12:15 アメリカの貿易政策の背景にある理性  
未定  
12:45 ディスカッション  
13:15 ランチ・ブレイク

### 第3セッション・ECの貿易政策

- 14:45 ECの貿易政策—そのいくつかの特徴  
Hans-Peter Fröhlich (ドイツ経済研究所)
- 15:15 ECの貿易政策：日本に対する12か国—対立から協調へ—  
Wolfgang Pape (EC委員会、ブリュセル)
- 15:45 ディスカッション
- 16:15 コーヒー・ブレイク

### パネル・ディスカッション

- 16:30 日本、アメリカ、ECの貿易政策の類似点と特殊性
- 17:30 終了

1993年12月12日

### 第4セッション・争点1 農業

- 9:30 農業における政府介入の歴史的背景と農業交渉の妥協点  
堀口 健治 (早稲田大学)
- 10:00 日本の農産物貿易と農業政策  
渡辺 好明 (農林水産省)
- 10:30 ECの農業政策と国際農業貿易における影響  
Adolf Weber (キール大学)
- 11:00 ディスカッション
- 11:30 ランチ・ブレイク

### 第5セッション・争点2 ハイテク

- 13:00 ハイテク貿易における政府の役割  
Glen S. Fukushima (AT & T日本)
- 13:30 ハイテク産業に対する官僚施策  
Maurice Bourène (EC委員会東京代表部)
- 14:00 ハイテク製品の国際市場における対ダンピング政策の分析  
清野 一治 (早稲田大学)
- 14:30 ディスカッション
- 15:00 コーヒー・ブレイク

### 第6セッション・摩擦解消の手段

- 15:30 日米構造問題協議 — 貿易摩擦解消のモデルか？  
山本 武彦 (早稲田大学)
- 16:00 市場開放の手段としての競争政策  
Franz Waldenberger (ドイツ-日本研究所)
- 16:30 ディスカッション
- 17:00 閉会の辞  
Josef Kreiner (ドイツ-日本研究所)
- 17:15 終了

## 講演者プロフィール

**Maurice Bourene** (モーリス・ブレーヌ) : 駐日フランス大使館に科学技術アタッシュとして8年間勤務した後、1990年に東京の駐日EC委員会代表部科学技術参事官に就任、現在に至っている。日本勤務中、ハイテク製品の貿易に関する日本政府との交渉に参加している。

**Hans-Peter Fröhlich** (ハンス=ペーター・フレーリッヒ) : ケルン所在のドイツ経済研究所の理事会の一員。同研究所のシニア国際経済学者として特に国際貿易、金融、通貨政策を担当している。欧州通貨同盟、保護主義、国際政策の調整等、幅広い範囲において多くの著書がある。

**Glen S. Fukushima** (グレン・S・フクシマ) : 1985年~1988年に米国通商代表部の日本担当部長、1988年~1990年には米国通商代表補代理(日本・中国担当)として後期のレーガン政権・ブッシュ政権を通じて日米間の貿易交渉の大部分に参加。現在は総合政策本部長兼市場開放本部長として日本AT & T株式会社に勤務。著書には「日米経済摩擦の政治学」朝日新聞社(1992)がある。

**堀口健治** (ほりぐちけんじ) : 早稲田大学政治経済学部教授。農業経済学および土地経済学の分析に大きく貢献している。最近は「食料輸入大国への警鐘—農産物貿易の実相」編著書、農文協(1993)がある。

**清野一治** (きよのかずひろ) : 早稲田大学政治経済学部教授。国際貿易および応用ミクロ経済学を専門とする。最近の著書は戦略的貿易政策の分析をはじめ、労働力の国際移動も取り上げている。

**根津利三郎** (ねずりさぶろう) : 通商産業省において産業政策局国際企業課長、基礎産業局鉄鋼業務課長、経済協力開発機構日本政府代表部参事官等を経て、現在は通商産業省大臣官房審議官としてガット・ウルグアイラウンド、経済協力開発機構、日米間二カ国交渉等の貿易交渉に取り組んでいる。

**大山耕輔** (おおやまこうすけ) : 筑波大学社会学研究所助教授。主に日本の産業政策プロセスおよび実施手段としての行政指導を研究している。最近の著書のテーマは戦後の日本産業政策史および日本型政策決定である。

**Kenneth A. Oye** (ケネス・A・オーエ) : マサチューセッツ工科大学政治学部教授兼国際研究所所長。国際経済政策問題と米国貿易政策の分析に多く貢献している。最近の著書には"Economic Discrimination and Political Exchange: World Political Economy in the 1930s and 1980s" (Princeton Univ. Press, 1992)がある。

**Wolfgang Pape** (ヴォルフガング・パーペ) : ブリュッセルEC本部のDelors 大統領直属のForward Studies Unit (Asia)部の一員。1982~1988年にはEC代表部の第一書記官としてEC-日本間の市場アクセス交渉に参加。ECと日本に関する著書も数多い。

**Franz Waldenberger** (フランツ・ヴァルデンベルガー) : 1992年までドイツ独占委員会に所属。最後の研究テーマ「戦略的貿易政策と競争政策の関係」は同委員会の隔年レポート第9号に発表された。現在東京のドイツ-日本研究所に研究員として勤務。日本の競争政策と産業組織について取り組んでいる。

**渡辺好明** (わたなべよしあき) : 農林水産省大臣官房企画室長。農産物と水産物の貿易に関する米国・韓国との数多くの交渉に参加し、食料管理法の改正にも従事した。また、米の生産・流通・価格問題にも詳しい。

**Adolf Weber** (アドルフ・ヴェーバー) : ドイツ・キール大学農業経済研究所の教授。世界食料経済、農業関連産業マーケティング、国際比較農業と政策について多くの著書がある。1974~1976年と1980~1982年にケニア・ナイロビ大学農業経済学部教授兼学部長を務めた。

**山本武彦** (やまもとたけひこ) : 早稲田大学大学院政治学研究科教務委員兼教授、早稲田大学政治経済学部教授。国際経済政策の分析に数多く貢献している。最近の著書は日米経済関係およびハイテク分野の貿易・政策問題がテーマである。